

「国富論」に登場する「見えない手」という言葉は、道徳感情論「第4部第1編」でも登場する。そして、自己の利益を追求する行動が、意図せずに社会の利益を高めることになる。スミスは繰り返し主張する。

## やさしい経済学

個々の消費者や企業にとって、市場メカニズムは目に見えない。だが、ある与えられた価格に従って自分の利益を追求するように行動するならば、財の需要量と供給

量が変わり、価格が調整変更され、やがて需給が一致する均衡が達成される。均衡で達成される需要量と供給量は、無駄のない資源配分を反映している。消費者や企業が自分の利益を追求することで、社会の利益が高められるのである。

さらに、個々の主体が自分のために行動するならば、競争が生じる。競争には競争の場を成立させるルールがあるが、放任はルールを伴わない。自由競争は自由放任とは異なるのである。よく「経済は生き物」と言われる。個々の主体が活動をしていて、産業という臓器もある。物の流れもあり、互いに関連している。総体として、成長したり、

競争が生じる。競争には競争の場を成立させるルールがあるが、放任はルールを伴わない。自由競争は自由放任とは異なるのである。よく「経済は生き物」と言われる。個々の主体が活動をしていて、産業という臓器もある。物の流れもあり、互いに関連している。総体として、成長したり、

競争が生じる。競争には競争の場を成立させるルールがあるが、放任はルールを伴わない。自由競争は自由放任とは異なるのである。よく「経済は生き物」と言われる。個々の主体が活動をしていて、産業という臓器もある。物の流れもあり、互いに関連している。総体として、成長したり、

危機：先人に学ぶ アダム・スミス

## 自由競争の効果

京都大学名誉教授 西村 和雄

いとみることでもできる。競争というそれだけで嫌う人もいるが、言い方を変えれば、動機付け、やる気である。

例えば野球を考えてみよう。ルールがなければゲームが成り立たない。しかし、投手はボールを左手で投げなければならない、打者はバットを垂直に構えなければならないというルールがあれば、右利きの人に不利になり、選手の創意・工夫

の余地がなくなる。ルールが細かく厳しすぎると、参加者のやる気をそぎ、見ても面白さが半減する。選手のやる気を促さないなら達成度も低くなるし、見ていてつまらないと国民の間に広がらない。最小限のルールで、自由に競争するから面白いのだ。

これを経済の言葉でいえば、自由な競争で総生産量が上がると、社会の利益にもつながることになる。